

公益財団法人かめのり財団
2021(令和3)年度 事業報告

2021(令和3)年4月1日～2022(令和4)年3月31日

2021(令和3)年度も、新型コロナウイルス感染症拡大で国際交流事業の多くが中止・延期せざるをえなくなり、昨年度に続き一部はオンラインでの実施を試みた。

そのような状況下にあっても、基本方針として、定款にうたわれる3つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等
その基盤支援事業を実施

することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を図る努力をした。以下、2021(令和3)年度主要事業の実施状況と成果を報告する。

1. 青少年留学支援事業

(1) 高校生交換留学支援

15周年記念事業のために、過去の参加者のデータの整理を行った。

(2) 大学院留学生支援

以下の奨学生7名に月額20万円を支給した。

2021(令和3)年度 大学院留学アジア奨学生

Ms. Chittarak Chanika (タイ)		チッターラーラック チャーカー	2019.4-2022.3	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻国際日本学領域
苗 静茹 (中国)	Ms. Miao Jingru	ミョウセイユ	2020.4-2022.3	東京大学大学院 法学政治学研究科 総合法政専攻
宜 鯤 (中国)	Mr. Yi Kun	ギ コン	2020.4-2023.3	京都大学大学院 経済学研究科 経済学専攻
孫 心悅 (中国)	Ms. Sun Xinyue	ソンシンエツ	2020.4-2023.3	同志社大学大学院 社会学研究科 社会福祉学専攻
Ms. Do Thi Thu Huong (ベトナム)		ド ティ テッ フーン	2021.4-2024.3	名古屋大学大学院 法学研究科 総合法政専攻
尹 美香 (韓国)	Ms. Yun Mihyang	ユンミヒヤン	2021.4-2023.3	早稲田大学大学院 法学研究科 民事法学専攻

金 叙娟 (韓国)	Ms. Kim Seoyeon	キムソヨン	2021.4-2023.3	東北大学大学院 文学研究科 総合人間学専攻
--------------	--------------------	-------	---------------	--------------------------

大学院留学アジア奨学生証書授与式を2021(令和3)年4月3日に開催した。奨学生と修了生が出席し、奨学生選考委員およびOB/OGはオンラインでの参加となった。

大学院生へのサポートの一環として、2021(令和3)年9月13日、14日の2日間、研修交流会をオンラインで実施し、奨学生7名と卒業生2名が参加した。各自の研究テーマの発表と意見交換、OBによるミニ講義、奨学生の状況を把握し、学生同士の親睦を深めるよい機会になった。

また、2年間実施できなかった研修交流会での日本の地方都市体験プログラムを、2022(令和4)年3月26日、27日の2日間、金沢にて実施し、奨学生3名が参加した。

加えて、2022(令和4)年度採用の「大学院留学アジア奨学生」の募集・選考を行った。指定校24校のうち2校から候補生の推薦があり、2022(令和4)年3月2日に選考試験(オンライン面接)を実施し、奨学生選考委員会により以下の2名を奨学生として決定した。

郭 凱琳 (マカオ)	Ms. Kok Hoi Lam	カクカイリン	2022.4-2024.3	関西学院大学大学院 経営戦略研究科 経営戦略専攻
Mr. Ho Wai Yip (シンガポール)		ホワイイップ	2022.4-2023.3	立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科

2. 青少年交流および言語教育支援事業

(1) 青少年国際交流

2021(令和3)年も引き続きコロナ禍による活動制限を大きく受けた事業で、次の2つの事業のみオンラインでの開催となった。

① 「かめのりカレッジ2022」

国内在住の大学生を対象に、2021(令和3)年12月4日にオリエンテーション、2022(令和4)年3月10日～14日にメインプログラムをオンラインで実施した。メインプログラムは対面にて実施予定であったが、コロナの感染状況からオンラインへと切り替えた。日本人だけでなくアジアからの留学生を含めた23名の大学生が参加し、オリエンテーション後、3ヵ月間英語のオンラインレッスンを受けた。メインプログラムは大学教員のほか国内外出身のビジネスパーソンなどの講師陣の講義に加え、学生との双方向のコミュニケーションを図り、有意義な事業となった。また、その後チームプロジェクトとして、各チームがオンラインでミーティングを重ね、2022(令和4)年4月16日の修了式にて英語でのチームプレゼンテーションを対面で実施している。

② カンボジアオンラインスタディツアー

(公社)日本ユネスコ協会連盟と共催で実施している「第7回高校生カンボジアスタディツアー」の参加者が実行委員となり、オンラインでのスタディーツアーを2021(令和3)年

8月21日に実施した。同連盟ユネスコスクール14校から約200名の高校生を対象として、同連盟カンボジア事務所や現地寺子屋と中継でつなぎ、ユネスコによる国際協力の現場をオンラインで体験し、カンボジアの寺子屋学習者へのインタビューや同学習者の家庭を訪問する等、現地との「つながり」を感じる貴重な学びの機会を提供した。

また、コロナ禍で海外渡航が安全かつ健康に実施できる状態でないと判断し、

- ・(公財) AFS 日本協会との第12回中学生交流プログラム(マレーシア)

- ・(独) 国際交流基金日中センターとの日本高校生訪中事業(中国)、

の2つの事業を中止した。

なお、パイロット事業であった国際交流基金関西国際センターと共催の「東南アジア高校生招へい事業」は延期に、武生東高校との「高校生ワールドハピネス会議」は中止した。

(2) 国際交流事業助成

2020(令和2)年に引き続き、多くの事業が中止・延期となる中で、「緊急支援プロジェクト助成」および「留学生緊急支援金」の2つの助成を実施し、計37,308千円の助成支援をした。

また、助成事業の一環としてベトナムにおけるNGO人材に関する調査を行った。

① 緊急支援プロジェクト助成

2021(令和3)年の助成では「多文化共生」をテーマとして、アジア・オセアニアを対象に、日本に居住する外国人やその人々が暮らす地域の抱える課題解決に向け取り組む活動を支援するため公募した結果、17団体から申請があった。2021(令和3)年9月に以下の7団体に計32,708千円の助成が決定し、2021(令和3)年度分の13,726千円を支給した。

採択団体、事業、助成額は以下のとおりである。

団体名	事業名	2021年度支給額 (助成金総額)
認定特定非営利活動法人 ふじみの国際交流センター	コロナ禍で職を失い、生活困窮に陥っている外国人の就職活動と、生活の安定に向けた支援(埼玉県ふじみ野市)	1,681,000円 (3,130,000円)
一般社団法人 多文化共生コスモ越谷	COVID-19禍における在住外国人の就労支援とワクチン接種に関する事業(埼玉県東部及び中央地区)	2,536,000円 (3,026,000円)
一般社団法人 YOU MAKE IT	COVID-19の影響を受け、生活が困窮する福岡在住留学生に対する食料支援と相談を通じた調査および情報発信事業(福岡県内及び近隣県)	685,000円 (2,982,000円)
特定非営利活動法人 名古屋難民支援室	東海地域に暮らす難民のコロナ禍における困窮・孤立防止のケースワーク及び実態調査事業(愛知県名古屋市を中心とした東海地域)	1,924,000円 (6,000,000円)
松山さかのうえ日本語学校	国際子ども食堂を通じた多文化共生プロジェクト(愛媛県松山市)	2,900,000円 (5,700,000円)

特定非営利活動法人 地球市民の会	外国人住民の生活全般を支えるセーフティーネット構築事業（九州）	3,000,000 円 (5,870,000 円)
公益社団法人シャンティ 国際ボランティア会	生活・法的支援による包括的生活安定支援 (東京都豊島区及びその周辺)	1,000,000 円 (6,000,000 円)
	合計	13,726,000 円 (32,708,000 円)

② 留学生緊急支援金

アルバイト先の休業や営業時間短縮が続き収入の回復が見込めないなど、修学の継続が困難な学生に対する経済的支援を目的とし、かめのり財団の大学院奨学金の推薦大学 24 大学を対象に募集し、23 名の学生に 1 人 20 万円計 460 万円支援金を交付した。

③ ベトナムで活動している日本 NGO の運営の実態と今後の活動に必要な人材育成等に関する委託調査

東南アジア諸国における人材育成の支援活動の基盤整備や、その担い手となる人材育成について検討するため、当財団の事業の中で関わりの多いベトナムでの NGO における人材育成に関する調査を、(特非)国際協力 NGO センター (JANIC) に委託し、1 年間かけて行った。

(3) 海外日本語教育サポート事業

① にほんご人フォーラム事業

延期していた(独)国際交流基金との共催事業「にほんご人フォーラム 2020 (タイ)」は中止とした。その代わりに、にほんご人フォーラムに参加した国々での関連事業への支援や新規のワークショップなどを企画・実施した。

a) かめのりワークショップ

「参加者自らが体験を通して気づき・学びを得る教育」がより多くの現場で実践されることを目指し、2021(令和 3)年 9 月 16 日～11 月 25 日までの 2 ヶ月間のオンラインワークショップを実施した。ベトナム人および日本人日本語教師 12 名が、日本だけでなく海外からも参加した。参加者自身がワークショップを作ることで「体験を通して学ぶ」ことを教師自身が体験することができた。

b) 国際交流基金海外拠点中等教育担当者のための勉強会

(独)国際交流基金の海外拠点(インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア)の中等教育支援担当の日本語専門家および日本語講師を対象に、2022(令和 4)年 2 月 9 日～3 月 2 日の期間に計 3 回の勉強会を行った。

c) その他

(独)国際交流基金の海外拠点との共催、または海外拠点実施の事業へ助成した。

事業名	共催/助成	実施期間	参加者
にほんご人フォーラム in フィリピン オンライン 2021	助成：マニラ日 本文化センター	2021年5月9日	フィリピン人中学・高校生 16名 フィリピン人教師 11名
にほんご人フォーラム in フィリピン オンライン 2022	共催：マニラ日 本文化センター	2022年1月16日	フィリピン人中学・高校生 19名 日本人中学・高校生 5名 フィリピン人教師 19名
2021年度オンラインに ほんご人フォーラム (インドネシア)	助成：ジャカル タ日本文化セン ター	2022年1月8日、22日、 2月12日	インドネシア人高校生 25名 インドネシア人教師 5名

② ベトナム日本語教育への支援

a) ベトナム中学生・高校生日本語ビデオコンテスト

(独) 国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとの共催で、日本語を学ぶベトナムの中学生・高校生を対象に、日本語学習のモチベーションの維持・向上に加え、創造力やクリティカルシンキング、ICT活用能力を育むことを目的にビデオコンテストを開催した。ベトナム全国から 259 作品の応募があり、中学生 8 作品、高校生 8 作品の計 16 作品が表彰された。

b) ベトナム初中等日本語教育教科書等作成・整備事業

ベトナムの初中等教育において日本語教育の新カリキュラムに沿った教科書等の作成事業について (独) 国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとともに支援した。3 か年事業として計 20,000 千円の支援を決定し、初年度となる 2021(令和 3)年度に 5,308,000 円を助成した。

3. 国際交流および人材育成の講演・セミナー事業

(1) 異文化理解講演会

講演会は、2021(令和 3)年度も実施を見送った。新たに「国際交流の新局面」と題したオンライン連続セミナーを、2021(令和 3)年 11 月から 12 月にかけて全 4 回実施した。第 1 回「青少年の国際交流の『これまで』と『これから』」、第 2 回「地域における多文化共生や外国人の就労の『これまで』と『これから』」、第 3 回「国際交流や多文化共生を支援する助成プログラムの『これまで』と『これから』」と題して各回 3 名のゲストスピーカーを迎え実施し、第 4 回は総括を行った。

(2) かめのりフォーラム 2022

「かめのりフォーラム 2022」を 2022(令和 4)年 1 月 8 日にオンラインで開催した。第 1 部では第 15 回かめのり賞の表彰セレモニーおよび受賞団体の活動紹介、第 2 部は第 15 回かめのり賞受賞者によるオンライン・パネルディスカッションを行った。「かめのりセッション 2022」は中高生プログラムの中止・延期が続いているため、実施を見送った。

4. 国際交流および人材育成に関する顕彰事業

第15回かめのり賞は、かめのり大賞2部門（草の根部門、人材育成部門）、かめのりさきがけ賞、特別賞の計4団体に顕彰した。将来を見据えた、地道な努力で心の絆を深め、相互理解に貢献している団体・個人の活動を評価した。正賞のトロフィーと、副賞として100万円の活動奨励金を贈呈した。23の団体・個人の応募があった。

【かめのり大賞 人材育成部門】（敬称略）

認定特定非営利活動法人 Hope and Faith International

【かめのり大賞 草の根部門】

認定特定非営利活動法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク

【かめのりさきがけ賞】

DAWN(Development Action for Women Network)(女性の自立のためのネットワーク)

【かめのり特別賞】

特定非営利活動法人わびねす

5. その他

(1) 広報活動の強化

継続的にホームページの充実を図るとともに、当財団の活動を、関係団体をはじめ広く周知するために、事業活動を紹介するニュースレター「かめのりコミュニティ」を7月、11月、3月と年3回発行した。

(2) IT の整備

リモート体制継続のため、ノート PC の支給や FortiGate によるセキュリティ強化などを実施した。また、過去の奨学生に関して現状を把握して、断続的にかめのり財団との関係をつなげるべく、OB・OGのネットワークづくりのために IT 環境の整備を行った。

(3) 15周年記念事業の準備

2021(令和3)年4月にかめのり財団設立15周年を迎えたが、コロナ禍で当初の計画での事業実施は困難となり、2022(令和4)年度へ延期とし、当初の計画から一部変更して次の5つの事業について企画、準備を進めた。①設立15周年記念かめのりフォーラム、②かめのり同窓会、③かめのりカレッジ2022、④かめのり未来を創るリーダーシップ・プロジェクト、⑤連続セミナーである。

以上